1-1≫

第1回ワークショップ

会場：あすとぴあ高田ミュゼ雪小町多目的室

2013年12月13日（金）、14日（土）

ワークショップスタート

（仮称）厚生産業会館基本設計の検討が住民参加によるワークショップ形式でスタートした。住民に幅広く利用される施設とするため、各施設ごとの代表者（市民）、市の関係課及び設計者と共に施設について議論が始まった。ワークショップに先立ち、ファシリテータである倉田直道教授（工学院大学　建築学部まちづくり学科　主任教授）が「利用者が意見を出すことで施設の内容が変わる。お互いが持っているものを持ち寄り共有し、協働することで影響し合い創造していくことで結果が変わっていく。自分たちが参加したことで結果が変わっていくという醍醐味がワークショップにはある。お茶を飲みながら話す感覚で参加して欲しい。」と、ワークショップの意義について説明した後、早速、色とりどりの付箋に参加者が自分の考えを書き、議論が始まった。市、設計者もワークショップから出される市民の意見を新施設に活かしていきたいと意気込みを語っていた。ワークショップは4月下旬まで全9回で開催される予定。

議論冒頭での自己紹介では、参加者から「皆さんのいろいろな意見を聞きながら話し合いをし、新しい施設が出来ることを楽しみに参加している」など今回のワークショップに対しての意気込みが聞かれた。

公民館部会での議論の様子

第1回ワークショップでは「具体的な活動のイメージとその利用者像」について各部会で話し合われた。その結果、公民館部会では「創る・発表する・楽しむ」・いろいろな人が利用できる施設、こども部会は、「親子で活動を楽しむ施設」・子どもが安全に遊び、かつ、親も活動に集中できる施設、ホール部会では「マルチなホールでマルチな活動」・日頃の活動の発表だけに留まらず、外から人を呼び込めるような様々なイベントができる施設、という新施設に期待する内容の意見がまとめられた。

こども部会での議論の様子

ホール部会での議論の様子

1-2≫

第2回ワークショップ

会場：市民プラザ第1会議室

2014年1月10日（金）、11日（土）

第2回ワークショップでは、はじめに施設の部屋の名前が書かれたカードを使い、各自が「自分の考える施設」を作った後、全体で一つの意見にまとめていった。参加者各自の活動が様々であり、求める機能が多様な中、一人一人の発表を聞いた後、施設としての機能を一つの案としてまとめることができた。

主に、公民館部会では「専用室として欲しい機能」「他の機能と重ね使いできるもの」「中高校生の交流」について、こども部会では「子どもが安全に遊べるプレイルームの在り方についての検討」「親も安心して活動できる部屋」「子どもが安心して遊べる屋外スペース」「一時預かり機能」について、ホール部会では「練習室や楽屋について他の施設との重ね使いの検討」「共用できる機能について、他の施設との相互利用の検討」「設備、備品などの管理運営、利用のルール」などが話し合われた。

特に公民館施設利用者やこども施設利用者からの利用が見込まれる和室に関しては、お茶や着付けなどの和室として専門的な機能を求める意見と、小さな子どもを連れた母親同士が活動したり飲食できたりするような多様なニーズに応えられる使いやすい和室を求める意見との両方があった。和室での活動にはどのようなものが考えられるか、その活動に必要な広さや設えなどが今後の検討課題となった。

また、新施設では小さな子どもの一時預かりのニーズも高くなると予想されることから、施設全体としての一時預かり機能が必要ではないかという意見も出された。

このように「各機能の重ね使い」「共用機能について」の検討が浮き上がった。一方、専門の機能については、特定の利用方法を想定し、配慮のある部屋にしたいという意見も出された。

こども部会での議論の様子

ホール部会での議論の様子

公民館部会での議論の様子